Iターン

福島県→鰺ヶ沢町

土屋 智則さん

會津めん 浜さき
（ラーメン店）
2021年12月創業

Case 01

予算にメリハリつけて創業 水害から再スタート。

ラーメン一筋30年。店長兼部長のポジションを務め、独立前から店舗運営の経験が豊富な土屋さん。決して順調ではなかった創業から9カ月目に大雨による甚大な被害を経験。再スタートをした土屋さんの想いを聞いた。

妻の故郷で創業する

鰺ヶ沢町に2021年にオープンした「會津めん 浜さき」。青森県では珍しい喜多方ラーメンを提供している。店主の土屋智則さんは福島県出身。学生アルバイトから始めてラーメン一筋。今年で30年目。喜多方ラーメンの有名店「坂内食堂」を皮切りにキャリアを積み、各地での店長経験もある。

独立を考えていたが、どこで創業しようか定まっていなかったところへ、妻の親戚から土地建物を貸してくれるとの話が持ち上がった。青森移住を決めたきっかけとなる。結局は工事に費用がかかりすぎるため断念し、コンビニエンスストアの跡地を改修した現在の店舗に落ち着いた。

創業までに考えたこと

店舗が決まり開店準備に邁進した土屋さん。

「コンビニ跡地なので、広さは十分だが冷房の増設が必要だった。既存のままでは調理場の熱をしのげない」

内装工事では床材にも工夫をこらし、カウンターの足元は、客席の靴がぶつかるため、汚れが目立たないようにグレーに。清潔感を保ちつつ、維持費を抑える工夫となる。設備費を抑える手段として、高額な厨房機器は中古品も活用し、子どもや高齢者向けのサービスにはコストをかける。全体として予算をかけるところ、締めるところが明確になっている。

最も苦労したことはオープン時の人材確保。時給を高めに設定したが、なかなか応募が来なかった。知り合いの紹介でなんとか集めたという。現在はスタッフも増え元気に働いている。

土屋さんの再スタート

くわしくは動画をチェック！！

床上浸水の被害を受けた店内。水が引き、テーブルやイスが散乱する（写真＝土屋智則さん）

家族と一緒の時間

移住・創業で家族との過ごし方が一番変わったという。

「妻とは仕事も一緒ですし、娘は目の前の小学校から店へ真っ直ぐ帰ってくるから安心」

バックヤードに娘が過ごせるスペースも確保した。早朝から深夜まで勤めていたかつてとは大きく変わった。「独立して家族と過ごす時間が増えたのが何よりうれしい」と土屋さんは笑顔を見せる。

水害から再スタート

2022年8月、鰺ヶ沢町に記録的な大雨が降り、各地で深刻な浸水被害が出た。「浜さき」も被災。濁流が店内に流れ込み、命の危険も感じたという。オープン9カ月目にして、1カ月の休業をすることになった。

「涙が止まらなかった。しかし、泣いてばかりはいられない。家族や従業員のためにもがんばらなければ」

営業を再開した際、待っていた地元客が多く戻ってきた。感謝と喜びで胸がいっぱいだったという土屋さんは「本当の勝負はこれから。自分でできることを一つひとつ形にして、新しいサービスや地元のニーズに応えられるような店にしていきたい」と意気込む。

土屋さんの創業まで

- 2021年2月▶退職
- 3月▶家族で深浦町へ移住
- 3月▶ごしょがわら圏域創業相談ルームに相談
- 8月▶店舗の交渉
- **12月▶會津めん 浜さき オープン**

支援機関担当からの一言

土屋さんは事業に対する知識、技術、経験が非常に豊富な方だったという印象です。空き物件が少ない中、立地条件の検討という点では苦労がありましたが、創業計画作成に対するアドバイスを積極的に取り入れ、リスクを抑えた形で事業実現に至ったと感じています。

Information

會津めん 浜さき

鰺ヶ沢町舞戸町字下富田55-2